

広報担当が取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。 **カシャ!!**  
 情報交流課 ☎0040 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp



マイクロビットのプログラミングに挑戦する児童

### 未来の社会をデザインしよう

#### ■プログラミング教室

地頭方小学校で1月29日、榎マキノハラボから講師を招き、6年生を対象にプログラミング教室が行われました。

この日の授業では、マイクロビット（教育用の小型マイコンボード）を用いて「暗くなると自動的に点灯する」などのプログラミングに挑戦。苦戦しながらも、全員が点灯させることに成功しました。授業の後半は「こんなセンサーや機械などがあつたらいいな」というアイデアを考えてみんなで共有し、未来の社会に思いをはせました。

### 牧之原のお茶の魅力を伝えよう

#### ■景観まちづくり学習

県の「景観まちづくり学習」研究指定校である牧之原小学校では、3年生が市のお茶や景観の魅力をPRするポスターを作っています。

1月20日の授業では、児童が市内で撮影した茶畑の写真について、班ごとに話し合って絞り込み、クラスメートに発表。「お茶の葉が大きく写っていてきれい」「茶畑と空のバランスが良い」などさまざまな意見が飛び交いました。

今後も総合学習の一環として授業を続け、本年度中にポスターを完成させる予定です。



どの茶畑の写真が良いか話し合う児童



色鮮やかでかわいいつるし飾りを楽しむ親子

### 子どもの健やかな成長を願う

#### ■大鐘家「つるし飾り展」

片浜区の国指定重要文化財「大鐘家」で、つるし飾り展が5月上旬まで開催されています。

つるし飾りは、子どもの健やかな成長を願い、桃の節句のひな壇の両側にぬいぐるみをつるす風習で、別名「桃飾り」とも呼ばれています。

展示スペースには、愛好家らが制作した100点以上の作品が展示され、訪れた人たちは、2メートルほどの高さからつるされた干支のうしや招き猫、巾着、鞆、着物などといった縁起物をかたどった色鮮やかなつるし飾りを楽しんでいました。

### 一筆一筆心を込めて

#### ■書き初め大会

菅山小学校の書き初め大会が1月7日に行われ、全校児童がこれまで練習を重ねてきた文字を清書しました。1・2年生は各教室で硬筆、3～6年生は体育館で毛筆の書き初めを行い、各学年の手本を見ながら、一筆一筆丁寧に書き上げました。

吉田歩未さん（4年）は「『力』の字が特に良く書けた。冬休みに家でいっぱい練習した成果を出せた」、松本遠雅くん（4年）は「大きさのバランスが難しかったけど、うまく書けた」とそれぞれ感想を話してくれました。



見本を見ながら、一筆一筆丁寧に書き上げる児童

### スポーツのさらなる推進のために

#### ■NPO法人牧之原市体育協会が名称変更

NPO法人牧之原市体育協会は2月1日、「NPO法人牧之原市スポーツ協会」に名称変更しました。

これは、スポーツが競技のみならずより幅広い身体活動の概念として認識され、社会の関心や期待が高まる中、そのニーズにきめ細やかに対応していくために名称変更したものです。

同協会の本目武彦会長は「より多くの皆さんにスポーツに参画してもらい、後世に承継していくため、今後もさまざまなスポーツ推進に努めたい」と決意を話しました。



体育館の協会旗を新しい名称のものに付け替える職員



指導を受けながら手もみに挑戦する児童

### 伝統のお茶の手もみを体験

#### ■お茶の手もみ教室

川崎小学校で1月20日、お茶の手もみ教室が行われ、3年生58人がお茶の手もみに挑戦しました。

この教室は、伝統の手もみを体験してお茶のことを知り、もっと好きになってもらうために、市茶手もみ保存会のメンバーを講師に招いて毎年行われています。児童たちは、保存会メンバーから手ほどきを受けながら、焙炉と呼ばれる手もみ台を使ってお茶を仕上げていきました。

体験した児童は「葉っぱが温かい。手がお茶のいい香りになって楽しい」と話してくれました。

### 勝間田城の御城印で環境整備

#### ■勝間田城の御城印販売

市史料館で2月28日まで行われている企画展「まきのはらを築いた人々～貴殿たちを忘れない…～」の第4期「郷土の豪族・勝間田氏」の開催に合わせ、これまで扇松堂菓子店（勝間田区）で販売されていた勝間田城の御城印が史料館でも販売され、多くの来場者が買い求めました。

御城印は、近年の城ブームの中、全国240以上の城で販売され、城めぐりの記念として人気を得ています。この御城印の売り上げは、勝間田城の環境整備に活用されます。



史料館に設置された販売機で御城印を購入する来場者



県担当者から厚生労働大臣表彰の伝達を受ける守屋副理事長（左）

### 当事者や家族の心を支え続ける

#### ■NPO法人精神保健福祉みどり会創立50周年記念式典

NPO法人精神保健福祉みどり会（小俣裕子理事長）が創立50周年を迎え、1月9日にさざんか記念式典が開かれました。また、平成25年まで理事長を務め、現在も副理事長として会を支え続ける守屋博久さんが厚生労働大臣表彰を受賞したことから、併せて表彰状伝達式も執り行われました。

守屋さんは「行政や会員の皆さんの協力のおかげ。小さな会だが、他の会には負けないという思いを持って、今後も頑張りたい」と感謝と抱負を述べました。